

第4回スキル標準の在り方に関する研究会 議事要旨

日時：平成26年5月2日（金）15：00～17：00

場所：独立行政法人 情報処理推進機構 15階委員会室1・2

出席者（五十音順）：

有賀氏、岩丸氏、木田氏（宇野氏代理）、大原氏、笥氏、島田氏、下村氏、田口氏、角田氏、平田氏、平松氏（古田氏代理）

【事務局】

経済産業省：江口情報処理振興課長、小池地域情報化人材育成推進室長、守谷課長補佐、小池課長補佐、平山課長補佐、松崎係長

情報処理推進機構：田中理事、秋元 HRD イニシアティブセンター長、日向グループリーダー、木村研究員

議事：スキル標準等の今後の運営について

<協議会の運営などについて>

- 協議会のイメージが湧かない。このような会議ではなく組織体ですか。任意団体なのか、社団法人なのか、ファウンディングや運営費はどうするのか。
- タスク・スキルを決めるとなると時間を使った実務的な作業が必要となる。月に一度集まってディスカッションすれば良いという話ではなく、相当負荷がかかり上手く回るのか気になる。
- 協議会の部会の例は挙がっているが、具体的な運営そのもの、推進してゆく母体を誰かがきちんと担っていかないと中途半端になる。結果について IPA や関係部門へ標準の改訂や試験はどうするかとの協議が必要になり、部会のみを上手く運営しても駄目で、運営体制はこれからだと思うが、組織構造を考えていったほうが良い。
- 民間主体で ITSS, UISS, ETSS をやっていくというのはわかるが、協議会の運営を考えると原資はどうするのか、事務局は誰がやるのか、工数がかかってしまう。継続的に運営していくためには、何か必要。民間主体となっているので、そのようなアイデアもここでの議論ではないのかもしれないが、その辺が上手く行くかどうかである。
- 運営資金といっても、会議費とか会場費とかで大金をかけるという話ではない。（時間の捻出を）言い出すと協議会はできない。積極的に参画して時間を作っていただくしかない。
- 参画したくない所はしたくないで、薄くなって落ちてくると考えていかねばならない。民でやるということはそういうこと。
- 協議会の具体的な方法をいつまでに定めるのか、問題先送りにならないように、協議会の発足は26年度と納期は決まっているが、IPA がやっている内はいいやということにならないように、民間でやることは自分たちでやるという意識・モチベーションを高めないといけない。
- 逆説的に申し上げると、協議会ができた方が良く思っている。なんとかして活用しようとか、都合が悪ければ変えようとか仕組みを使う人たち側から声が出てこなければ、

良くならない。スキル標準の本来の目的は、できる人にはきちんとインセンティブが付いて、定義された機能の組み合わせによって仕事をきっちりとやっていく、それが品質保証にもなるという、大きな理念からスタートしている。できるやつでもできないやつでも 100 万円で売った方が得だという業界体質が続いているのは絶対にダメである。

- 掲げられている目的とか方向性は、異議を唱えるものでもないし全く賛成だが、例えば 29 年度でデータベースが完成したあとのそのデータベースの運営はずっと IPA がやってくださるという事で良いのか。それとも、この協議会が引き取って、運営をやっていくということであれば、それを回すためのお金を得るための事業スキームをつくらないといけないし、そういう事が得意な人を入れていかないといけない。
- 準備会合をもって進めるということには賛成です。一番の関心毎は新分野についてどうやっていくかということ。我々のメリットとお客さんのためにもなるということで各社関心を持っている、標準については、自分たちの中でしっかり定着させていくことが、それなりの大きな会社が多いので、普及につながるという意識であります。

<その他>

- 人材とスキルを分けるのは結構なのだが、人材像はあくまでイメージであって概念である。概念を定義するには、タスクとスキルによって明確に定義してゆくのが基本である。エビデンスのあるタスク・スキルをきちんと踏まえた上で、人材を定義する連携を取って頂きたいと願います。
- 協議会の中に国際的なエッセンスを取り扱う機能をつくれないうと思う。いろいろな国の人が集まって下ならししていくという動きが活発なので、日本でやるのは難しい面もあるが、(国際的なエッセンスがないのは) 少しさびしい気がする。協議会の中で、国際的な動きをする機能を加えておいてほしいと個人的には思う。
- 前回 J17 の話もあったが、そのようなものときちんとリンクさせてゆくことが必要だと思う。今度の新しいタスク・スキルの辞書ともうまく連携してゆければ良いと思う。J17 との連動は絶対に必要だと思う。
- J17 は情報処理学会としてしっかり作るが、1 番の問題は、情報人材と言っている人たちは、J07 でカバー・対象としてきた、情報工学や情報科学の人たちばかりではなく、むしろ殆どそれ以外の方に対して、どの様にナレッジをつくれるのか、特に IT の専門家ではなく、IT を解っていて本当は経済の専門家とかいう人がたくさんいる仕組みにもっていかないといけない。
- CCSF 追補版でタスクを統合してもらったが、基本は 3 スキル標準のものであるので、粒度や統一感でやりづらいところがあったのと、スキルの問題でタスクを細かくしたようなものだけをスキルと呼んでいるところがあり、もう一度、タスク・スキル・知識の整理を協議会で行っていただければ運用しやすくなると思う。
- 世界の動きをウォッチしていくのは誰なのかは重要で、レスリングがオリンピックから外れて慌てている状況の二の舞になってはよくない。標準間競争が世界で起きていることは事実で、アジアの違うところから何かが出るということもゼロではないので、当面は METI の方でやって行かないといけないと改めて思う。
- 今の IPA で海外の対応がきちんと出来ているかということ、海外のプロジェクトとの在り

方と全然違うので、きちんとした連携が出来ていると思えない。もう少し体制は考えないといけない。

- 私が重たいなと思うのは、このタスク・スキルディクショナリを英語化するというのをやらないと、たぶんガラパゴスになってしまうし、ASEAN とかへ情報処理試験とかをやるうとするとリンクが取れなくなってしまう。協議会が英語のものをメンテナンスしていくということになると大変だなと思う。

以上